

特集：山と自然のサイエンスカフェ@信州

1990年代にイギリスとフランスではじまり、今では世界各地で行われているというサイエンスカフェ。街中のカフェなどで飲み物を片手に、くつろいだ雰囲気の中で科学について語り合う催しです。当研究所では、「山と自然のサイエンスカフェ@信州」を長野市善光寺の近くのギャラリーMAZEKOZE（マゼコゼ）で開催してきました。2年目となった平成27年度は、各研究スタッフの“とっておきの話題”をご提供しました。みなさまからは毎回熱心なご質問やコメントが寄せられ、話題は深くまた多岐に広がりました。その一端を、この特集でお伝えできればと思います。

第1回 カメラでウォッチング！山の雪融け

5月14日

下の写真は、春に八方尾根から撮影した白馬三山付近の残雪の様子です。このような山の残雪の写真を使って、地球温暖化の状況をモニタリングする研究にいま取り組んでいます。



研究を始めることになったきっかけは、実感しにくい地球温暖化をどうしたら一般の方にわかりやすく伝えることができるだろうか、関心を持っていただけだろうか、という素朴な疑問からでした。そのとき、直感的に山の雪はどうだろう！と思いました。これなら、長野県の人にとって身近な存在だし、きっと関心のある人もいるだろうと思ったのです。調べてみたところ、山の雪は気候変動のセンサーとして使えそうだということがわかり、これを研究材料にすることとしました。

雪融けのタイミングは、その年の降雪量と春以降の気温によっておおよそ決まります。山の雪融けのタイミングをモニタリングするということは、地球温暖化にともなって、山に降る雪の量が増えるのか



減るのか、山の上の気温は上昇するのかなど、の良い指標になるのです。しかし、山の上で雪や気温の観測をするのは技術的にも労力的にも困難が伴